

序 文

この度発刊する北海道農業研究センタープロジェクト研究成果シリーズNo.6は、当センターが中心となって実施した地域農業総合確立研究「北海道における良食味米直播栽培を導入した米・野菜複合による高収益水田営農システムの確立」の成果を取りまとめたものです。本プロジェクト研究は、平成19年度から平成22年度までの4年間、(独)農業・食品産業技術総合研究機構の交付金プロジェクトとして実施したものです。

水稲直播栽培は北海道の大規模水田作を支えるキーテクノロジーとして期待されており、30年以上脈々と研究が続けられてきました。平成18年に待望の直播適性の高い早生・良食味品種「ほしまる」が登場し、この新品種を基軸とした北海道水田作地帯の次世代のビジョンが求められておりました。

こうした研究開発ニーズを受けて、本プロジェクト研究では(独)農研機構北海道農業研究センター、北海道立総合研究機構農業研究本部(旧道立農業試験場)、拓殖大学北海道短期大学、農研機構食品総合研究所が中心となって市町村、農協等と協力しながら、これまで取り組んできた水稲の乾田並びに湛水直播栽培技術を新品種で展開し、播種・栽培技術を体系化するとともに、収穫作業の省力化が可能なカボチャ新品種の開発並びに開発品種の転換畑における栽培技術やミニトマトの省力的な施設栽培技術を開発いたしました。更にそれら技術を組み込んだ営農の姿を経営評価により明らかにし、新たな営農体系を確立いたしました。

本プロジェクトの成果は、生産者が新たに取り組むための技術要素が網羅されており、多くの生産者が開発技術を導入した野菜栽培や、作成した栽培指針に基づく水稲直播栽培を実践しております。

最後になりましたが、このプロジェクトの推進にあたり多くの関係者のご協力を得ました。プロジェクトの推進に有益なご指導をいただいた、評価委員、上川、空知の実証農家、実証地域の農協、農業改良普及センターの関係各位に衷心よりお礼申し上げます。

平成24年3月

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター所長
天野 哲郎